まんがで知る未来への学び②

教師も変革を起こす時代

前田康裕［文と漫画］

さくら社

◇ まえがき

戦後の工業化社会で大成功を収めた日本。自動車や家電製品といった製造業の分野では世界を席巻し、昭和の終わり頃はアメリカをも追い抜く勢いでした。多くの日本人が、この成功は永遠に続くと思っていたように思います。

しかし、平成の三十年間で、産業構造はテクノロジーにより大きく変化しました。ネット通販が爆発的に普及し、本、音楽、映像といったコンテンツはデジタル化されダウンロードされるようになりました。様々な情報はネットから瞬時に手に入れられるようになり、一方では個人が世界に向けて情報を発信できるようにもなりました。今までは知り合うこともできなかった個人がつながるようになり、会いに行かなくてもＷｅｂ会議で顔を見ながら話し合うことも簡単にできるようになっています。

このようなサービスを提供できるグーグルやアマゾンといったベンチャー企業が瞬く間に世界的な大企業となり、世界は大きく変わってしまったのです。

このような世界経済の大変化に日本が取り残されてしまったことは否めないでしょう。

その日本の目の前には、少子高齢化による急激な人口減少という現実が突きつけられています。長寿化が進めば、定年退職後の人生設計も考えなくてはなりません。組織に属していた頃の役職や肩書きに依存しない個人の資質・能力がますます問われることになっていくでしょう。

現代はまさに「変革の時代」です。

今後、ＡＩ（人工知能）が人間の能力を追い抜く時代が来れば、現在存在する多くの仕事が消えていくと考えられています。また、物を豊富に所有していても、地震や台風などの自然災害が起これば、あっという間に価値のないものになることを感じた人々も多いはずです。

そんな社会の変化の中で、私たちは漠然とした不安を抱えているのが現状ではないでしょうか。どんなに物が豊富にあり生活が便利になったとしても、幸福感を感じられなくなっているのです。

社会が変化すれば教育も変化しなくてはなりません。

前作『まんがで知る未来への学び』では新しい社会へ対応する新教育課程の理念を解説しました。

続く今回は、社会の変化に対応して自ら変革を起こすための人間の考え方と行動をテーマにしてまとめてみました。各章の終わりには、そのような視点で解説をしています。

また、漫画は文章と異なり、その絵やストーリーからどのような解釈を導き出すかは読者に委ねられています。登場人物が発する様々なセリフには、私からの隠れたメッセージを込めています。

解釈を楽しみながら読んでいただければ、作者としてこれほどうれしいことはありません。

前田康裕

第1章
今までの常識を疑う
――経済活動とは何か――9

コラム◎変革の時に備えるビジネス書 ❶
日立東大ラボ『Society（ソサエティ）5.0』――28

第2章
対話によって知識を生み出す
――STEAM人材のマインドセット――29

コラム◎変革の時に備えるビジネス書 ❷
ヤング吉原麻里子、木島里江『世界を変えるSTEAM人材』――48

第3章
自分の箱を飛び出す
持続可能な開発目標と大人の行動 ―― 49
コラム◎変革の時に備えるビジネス書 ❸
日能研教務部『SDGs』 ―― 68

第4章
自分事として考える
社会情動的スキルと特別活動 ―― 69
コラム◎変革の時に備えるビジネス書 ❹
吉藤オリィ『サイボーグ時代』 ―― 88

第5章
対立を克服する
理念の共有 ―― 89

コラム◎変革の時に備えるビジネス書 ❺
シビックプライド研究会『シビックプライド2【国内編】』 108

第6章
他者のよさを認める
謙虚さと好奇心 109

コラム◎変革の時に備えるビジネス書 ❻
ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド『FACTFULNESS』 128

第7章
楽しんで学ぶ
よき学び手となる資質 129

コラム◎変革の時に備えるビジネス書 ❼
ピョートル・フェリクス・グジバチ『ニューエリート』 148

第8章

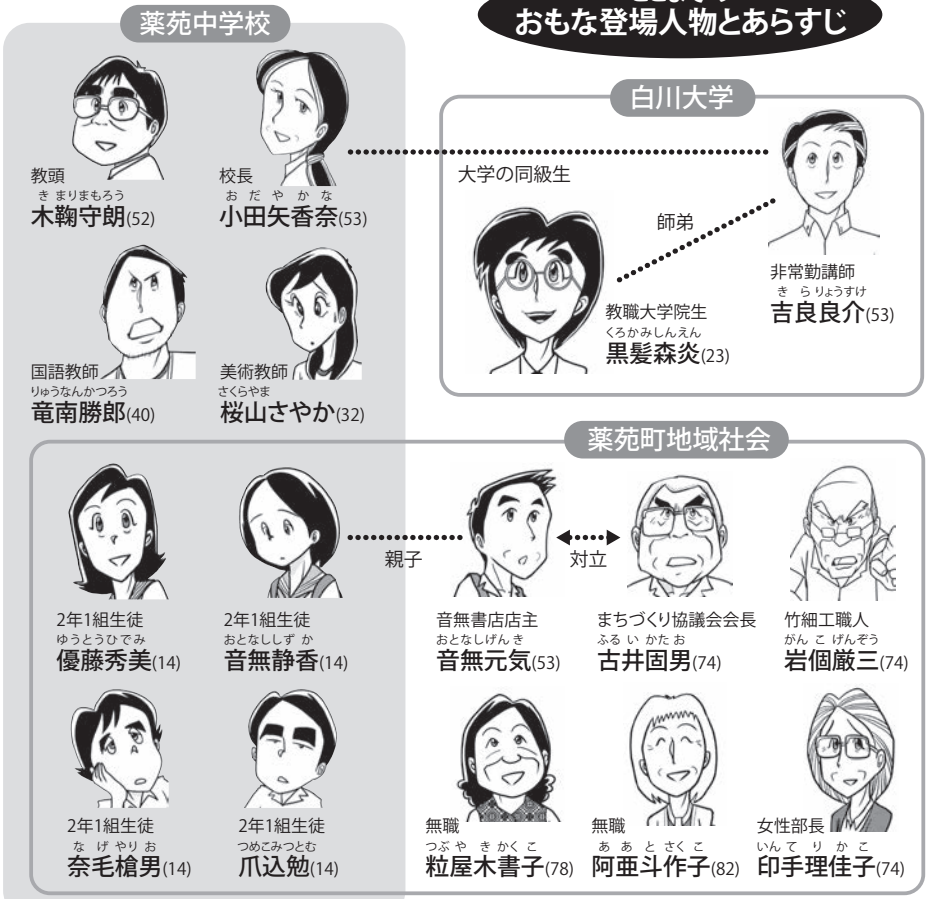
仲間への感謝と信頼の気持ちを持つ

温かいコミュニケーション ―― 149

コラム◎変革の時に備えるビジネス書 ❽

落合陽一『これからの世界をつくる仲間たちへ』 ―― 168

ここまでの おもな登場人物とあらすじ



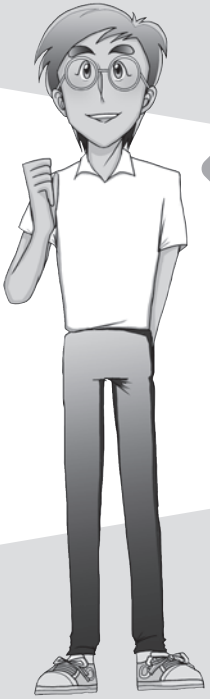
町の衰退を防ぐために活性化を模索する薬苑町。中学校にはタブレット型端末が整備される。教師の桜山さやかと竜南勝郎は多忙な生活を送っており、そこに大学院生の黒髪森炎が実習にくることになった。

赤字経営が続く本屋の店主である音無元気は町の活性化を願っているが、町づくり協議会の古井固男会長と意見が合わずに対立。引っ越しも視野に入れていた。

元気の娘である音無静香は引っ越しを恐れており、親友の優藤秀美は心配する。同級生の奈毛槍男は学習意欲に乏しく、爪込勉は受験のことばかりを気にしていた。

元気は、高齢者が集う「大人の学びカフェ」を開催し、印手理佳子、阿亜斗作子、粒屋木書子がSNSで町の情報を拡散する。

ポスター制作のために町を歩き回った子どもたちは、岩個厳三の竹細工に出会う一方、さびれゆく町の現状にも気づいていった。そして最後に見たものは、廃墟になりかけている「ふるさと学舎」の姿だった。

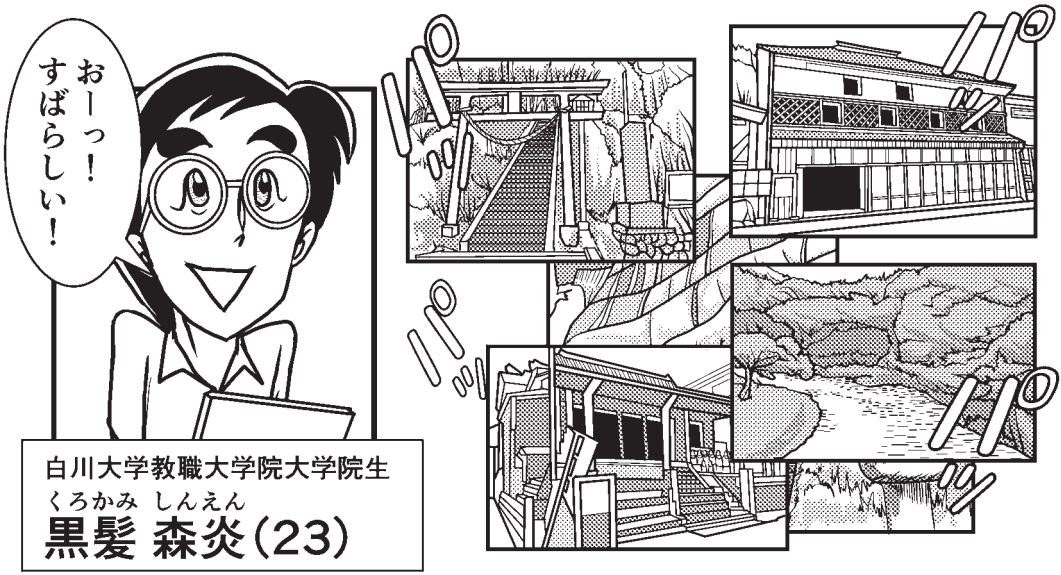


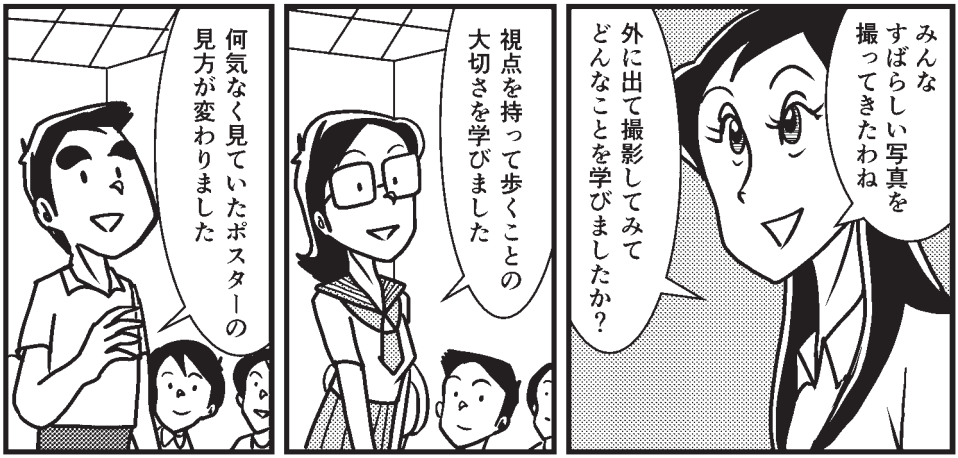
第1章

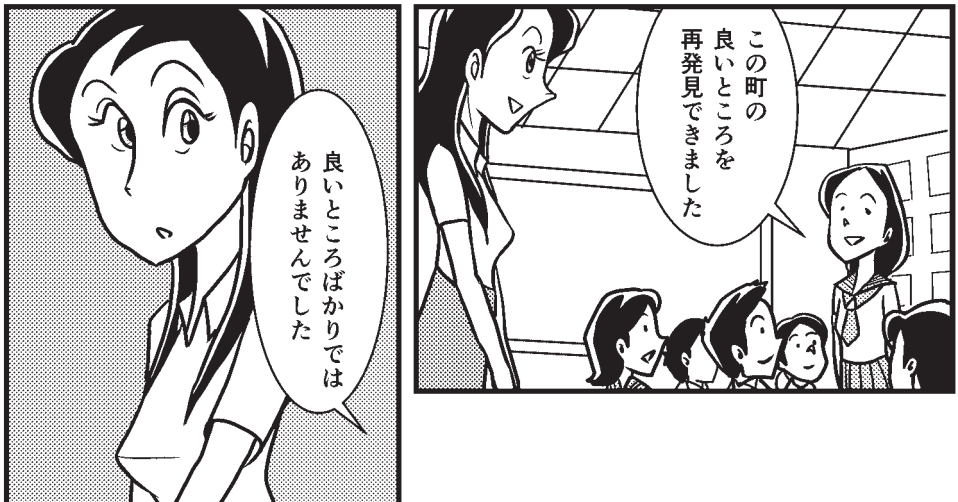
今までの常識を疑う

経済活動とは何か

美術室
ポスターになりそうな写真の撮影はできましたか？
薬苑町立
薬苑中学校
ガヤガヤ
ワイワイ
それぞれ自分のベストーを選んで
提出箱に写真を入れてください
２年１組担任　美術教師
女子バスケットボール部 副顧問
桜山（さくらやま） さやか（32）
わーっ！すてき！


おーっ！すばらしい！
パ
パ
パ
パ
白川大学教職大学院大学院生
黒髪 森炎（23）
くろかみ しんえん

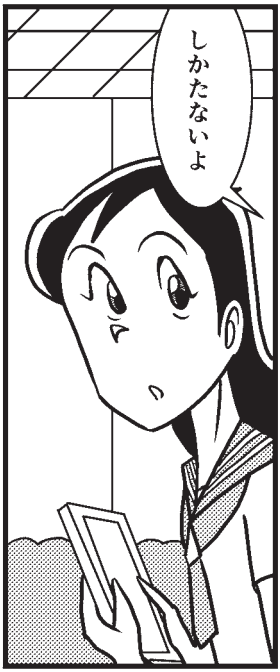

みんなすばらしい写真を撮ってきたわね
外に出て撮影してみてどんなことを学びましたか？
視点を持って歩くことの大切さを学びました
何気なく見ていたポスターの見方が変わりました

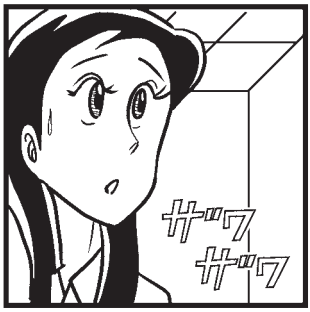

この町の良いところを再発見できました
良いところばかりではありませんでした

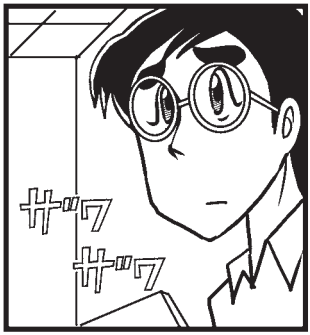
商店街はシャッターが閉まっている店も多くて
ふるさと学舎はボロボロになっていました
パッ
パッ
入居者募集
000-000-0000
ふ
2年1組生徒
ゆうとうひでみ
優藤 秀美(14)

この町は本当になくなってしまうのではないかって
なんだか心配になってきて…
ガヴ
ガヴ

日本はさ人口が減ってるんだから
小さな町や村はなくなっていくんだよ
2年1組生徒
つめこみつとむ
爪込 勉(14)


しかたないよ


ガヴ
ガヴ


ガヴ
ガヴ

ぼくたちには
どうすることも
できないんだよ

・・・・

２年１組生徒
奈毛 槍男（なげやりお）(14)

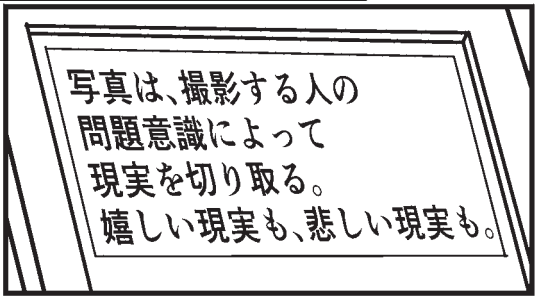
ま・・・まあ
そうならないように
するためにも
いいポスターを
作ろうね

では
今日のふりかえりを
入力して下さい

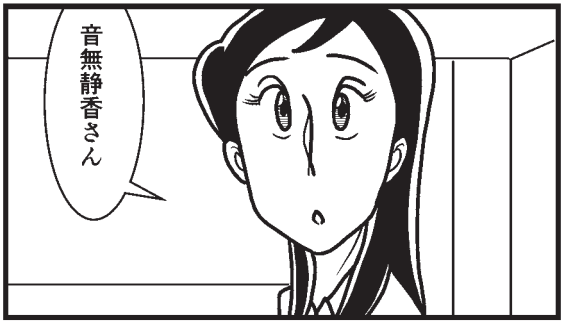
カタカタ

２年1組生徒
音無 静香（おとなしずか）(14)

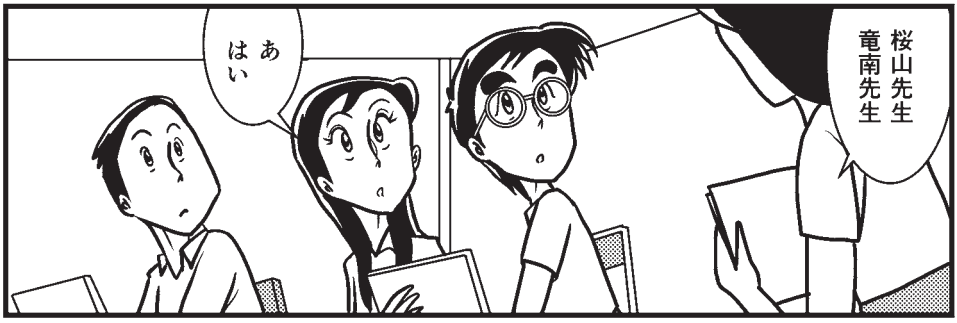
職員室
子どもたちの写真良かったですね
みんな真剣に考えているわよね
２年２組担任　国語教師
女子バスケットボール部顧問
竜南 勝郎(40)

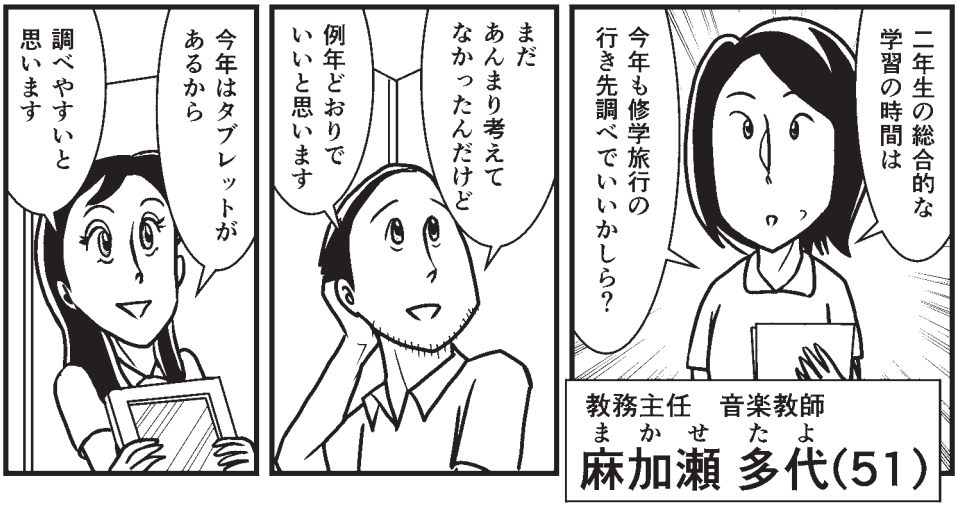

写真は、撮影する人の
問題意識によって
現実を切り取る。
嬉しい現実も、悲しい現実も。

ふりかえりの文章の中に
こんなことが書いてあったわ


音無静香さん

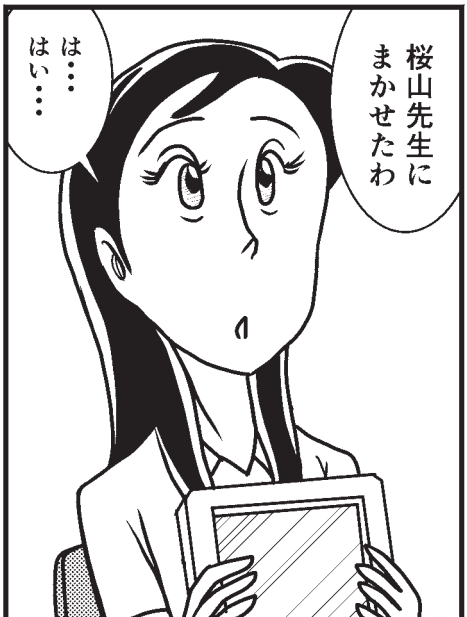
だ・・だれですか

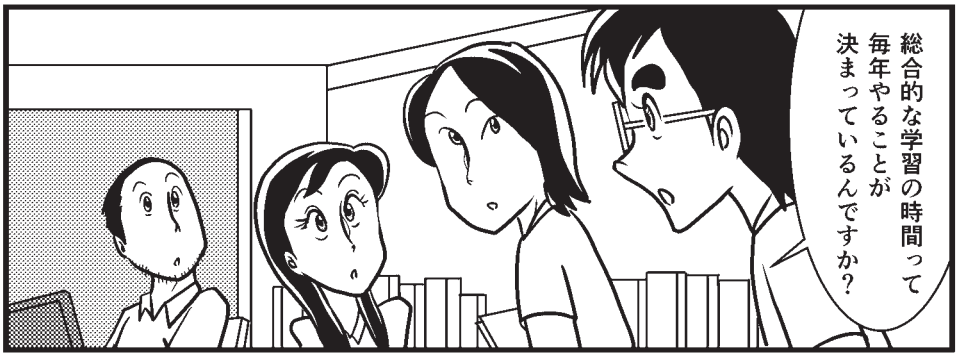

桜山先生
竜南先生
あ
はい


二年生の総合的な学習の時間は
今年も修学旅行の行き先調べでいいかしら？
教務主任　音楽教師
麻加瀬（まかせ） 多代（たよ）(51)
まだあんまり考えてなかったんだけど
例年どおりでいいと思います
今年はタブレットがあるから
調べやすいと思います

ああ…タブレットね
必ず使わなくちゃいけないってわけじゃないでしょ
まあ…そうですけど

わたしこういうのって苦手なのよねー
第一音楽の授業では使わないし
なんだか不安だし

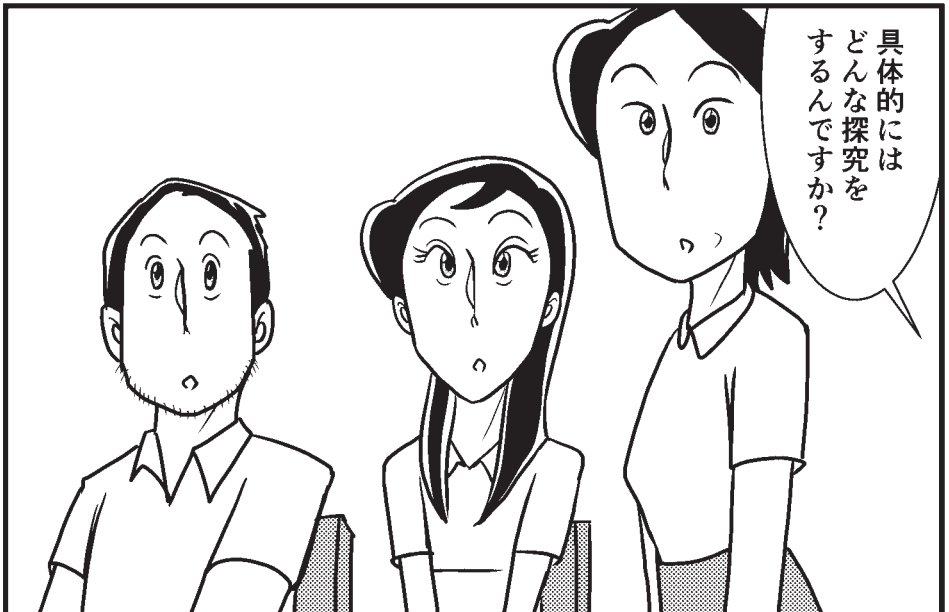

桜山先生にまかせたわ
は…はい…

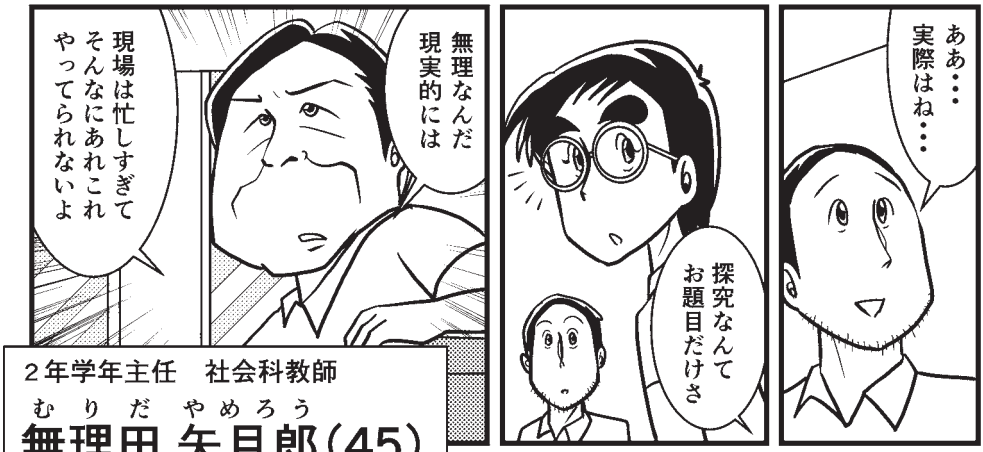

総合的な学習の時間って毎年やることが決まっているんですか？

一年生は農作業の体験学習で
二年生は修学旅行の行き先調べ

三年生は文化祭の練習だけど・・・
後半はほとんど入試関係になってるわね

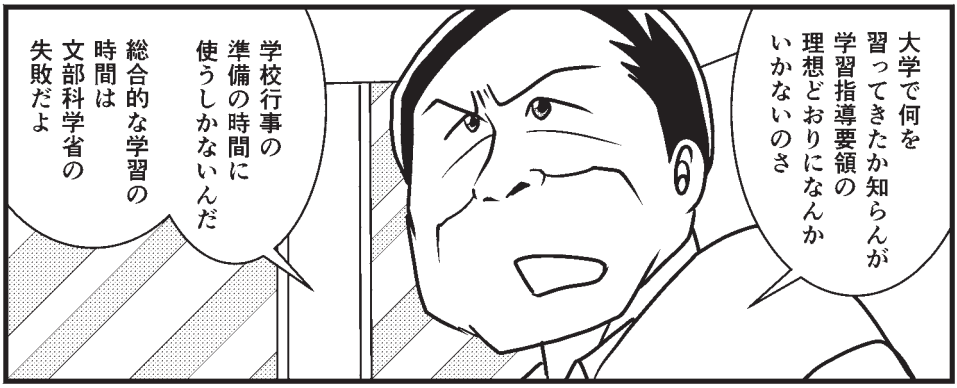
総合的な学習の時間では探究的な学習を重視すると習ったんですが


具体的にはどんな探究をするんですか？

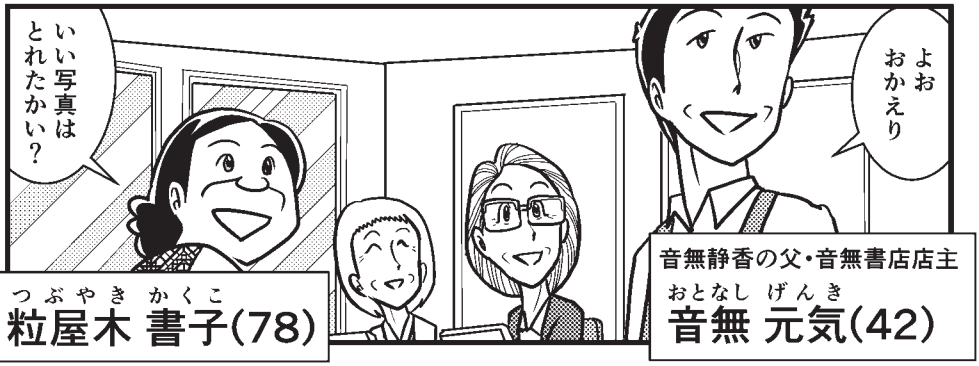


２年学年主任　社会科教師

無理田（むりだ） 矢目郎（やめろう）（45）



こんにちは
カラン
大人の学びカフェ


よおおかえり
いい写真はとれたかい？
音無静香の父・音無書店店主
音無 元気(42)
粒屋木 書子(78)

はい
特に岩個厳三さんの竹細工がすばらしかったです
竹細工職人
岩個 厳三(74)

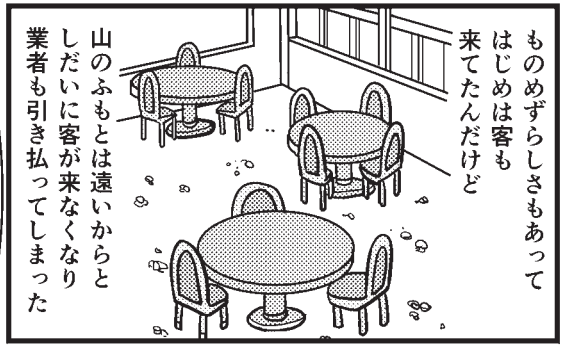
ただ…
ふるさと学舎が…

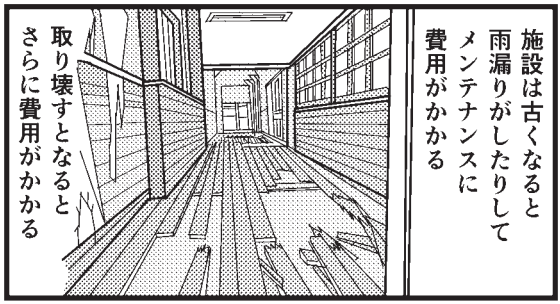
ゲンちゃんは私と同級生なのよ
薬苑町　女性部長
印手 理佳子(74)

厳三さんはねガンコものだけど腕は確かです
阿亜斗 作子(82)

行ったのか？
どうなってた？
もう
ボロボロの
状態で・・・
だろうな

十年前
子飼小学校が
廃校になる時に
コンサルタントの
アドバイスを受けて
喫茶店を入れて
遊び場にしたんだ


ものめずらしさもあって
はじめは客も
来てたんだけど
山のふもとは遠いからと
しだいに客が来なくなり
業者も引き払ってしまった


施設は古くなると
雨漏りがしたりして
メンテナンスに
費用がかかる
取り壊すとなると
さらに費用がかかる

何かを持続させるためには
それを願う人々の気持ちと
それを支えるための
経済の力がいるんだよ

人々が生活をするためには生産活動が必要だ

よし野菜を作ろう

物々交換社会

魚と交換して

自分が消費して余った分は他者のモノと交換することで生活は豊かになる

貨幣経済社会

貨幣があるとさらにモノは交換しやすくなる

いろいろなモノやサービスが手に入るぞ

お金

お金

旅行チケット

生産と消費によって生活環境をよくすることこれが経済活動だ

人々の生活環境をよくするためのモノやサービスが提供できれば経済活動は活性化される

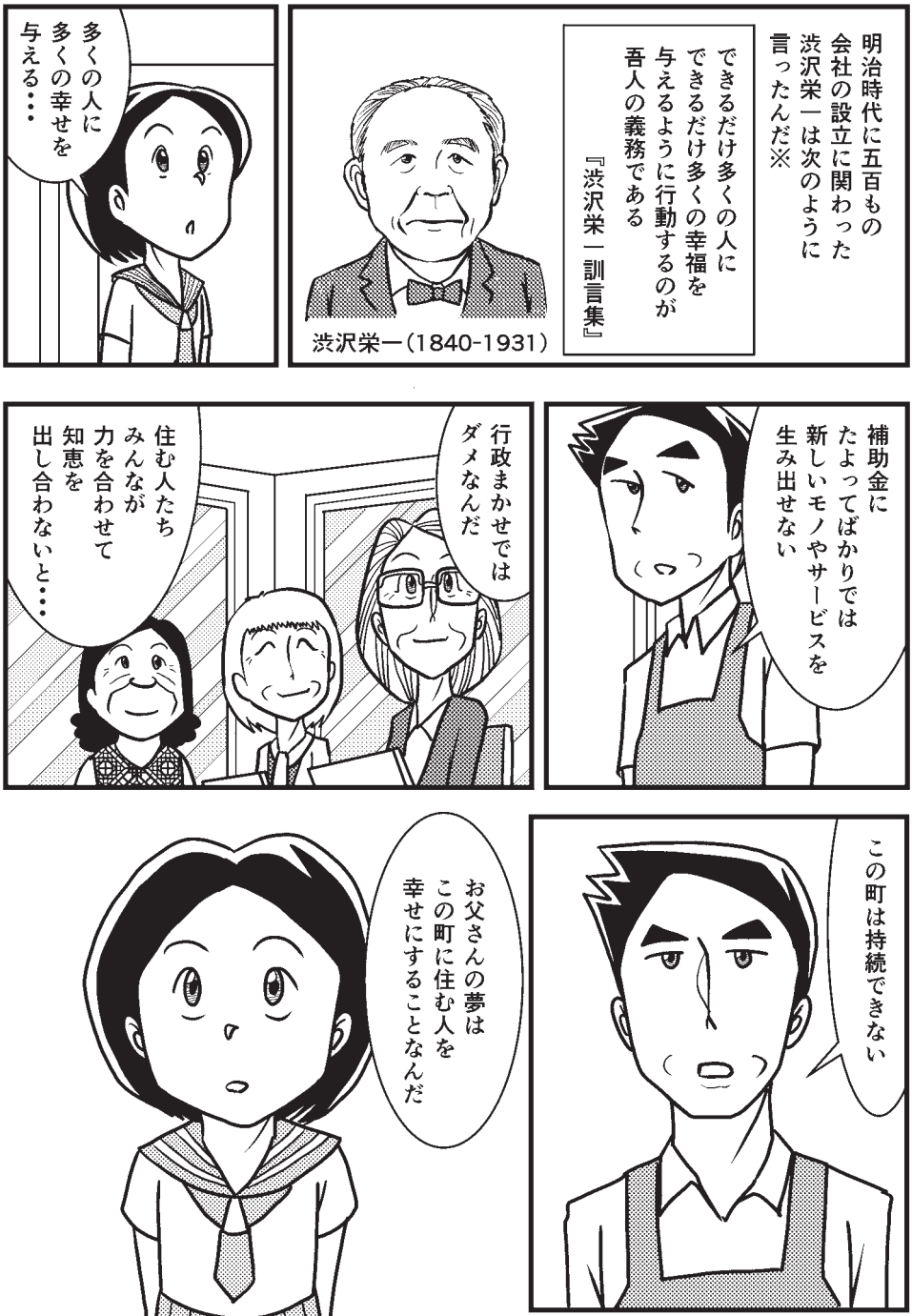
人々の生活環境をよくするためのモノやサービス

モノやサービス

お金

社会

経済活動を活性化させる力が経済力だ



※渋澤健著『渋沢栄一 100の訓言』（日経ビジネス人文庫）

翌日

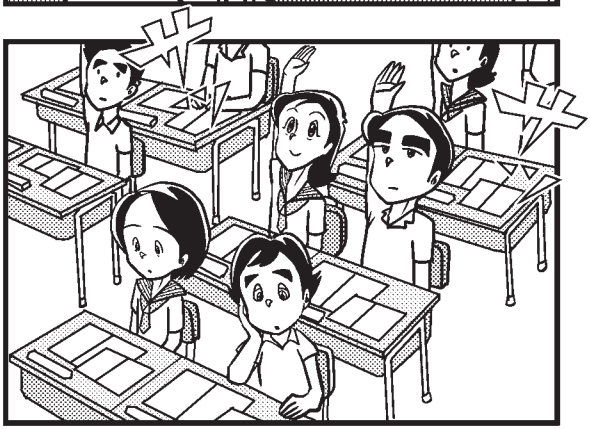
2年1組

今日の授業のめあては「書き方の工夫」に気づくことだ

筆者が分かりやすく伝えたり読み手をひきつけたりするために工夫している箇所を探してみよう

本文に線を引いてごらん

分かる人？

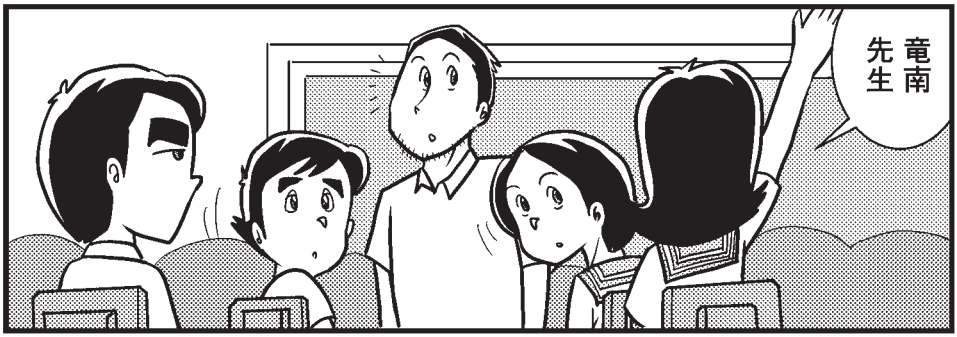


なんだなんだ

手を挙げる人はいつも決まっているぞ

そんなことでは受験は乗り切れないぞ
勇気を出して発表してみよう
発表することに意義があるんだ
奈毛君は本文に線を引いてるじゃないか
なんで手を挙げないんだ？
だって正しい答えは優藤さんや爪込君が言ってくれるから
オレたちはそれを聞けばいいっしょ
手を挙げても意味ないっすよ
それに国語苦手だし

苦手だからと言って逃げてはダメだぞ
チャレンジすることが大切なんだ
先生も中学の時は理科が苦手だったけど…


竜南先生

手を挙げて発言するのってけっこう勇気がいるので

タブレットを使ってグループで話し合ってもいいですか？
みんなが発言できるように

そ・・
そうか
つ・・使っても
いいんだけど

タブレットは
あくまでも
道具にしか
すぎないんだ

国語科の
学習の
本質ではない

道具に頼ると
みんなの前で
発表する力が
弱まってしまう
危険性だってある

道具に
振り回されて
しまっては
いけないんだよ

優藤さん
先生を
困らせちゃ
いけないよ

先生だって
苦手なことは
あるんだから

解説1

今までの常識を疑う

黒板の前に教師が立って生徒に問いかけ、できる生徒が手を挙げて答えを述べる。それを教師が黒板に書き、生徒はそれをノートに写す。日本全国でそのような授業が常識的に行われてきました。漫画の中の竜南先生の授業のスタイルはまさにこのタイプのもので、大勢の生徒に、効率的にある一定の学力を保障するというメリットがあります。しかし、このタイプの授業では、発言した生徒の意見だけで授業が展開するので、発言できない生徒の意見が取り残されやすくなります。また、教師の説明が多くなると、生徒は受身になってしまいます。

変化の激しい現代社会においては、学校で教えてもらった知識や技能はすぐに古くなってしまいます。学校を出てからも自ら学習できるようなスキルを身に付けておかなくてはならないのです。

そのためには、従来から常識的に行われてきた授業についても、「教師が生徒に教える」という考え方から、「生徒をよき学習者に育てる」という考え方に変化させていく必要があります。また、授業に限らず、今まで常識的に行われてきた学校行事や校則なども一度疑ってみて、それは本当に学習者を育てることになっているのかという観点で見直してみてはどうでしょうか。

◉ 経済活動とは何か

ときどき、「経済活動＝お金を稼ぐこと＝悪」といった偏った考え方の人に出会うことがあってびっくりすることがあります。その人達は「幸せはお金では買えない」といった論理一辺倒なのです。

では、そもそも経済とは何なのでしょう。

漢語の「経済」は、「世の中を治め、人民を救う」ことを意味する「経世済民」の略語であると言われています。一方で日本語の「経済」は英語の「economy」の訳語であり、幕末維新期に普及した言葉です。その意味は次のように示されています。

①物資の生産・流通・交換・分配とその消費・蓄積の全過程、およびその中で営まれる社会的諸関係の総体。※

そう考えると経済活動は、人間の生活を豊かにしていくために必要不可欠なものであるわけです。人間の生活を豊かにするという目的よりも利益を上げることの方が優先されるから問題になるのです。

これからの人口減少時代においては、高度経済成長時代に常識的に行われてきた「都会を中心に物質的な生産を行う」という考え方から、「地方で文化的な創造を行う」という考え方に切り替えることもできるのではないでしょうか。そこに新しい経済活動が生まれる可能性があるのです。

※　松村明編著『大辞林［第三版］』三省堂、２００８年

Society（ソサエティ）5.0
人間中心の超スマート社会

日立東大ラボ
（日本経済新聞出版社）

今まさに、テクノロジーの急速な発展、グローバル化の進展などによって、経済や社会の仕組みや産業の構造が急速に変化する大変革の時代を迎えています。日本政府は、そのような時代に対応し、経済の発展と社会的な課題の解決を両立し、新たな価値を創出するために「Society5.0」という未来社会の姿を構想しました。

東京大学と日立製作所は、Society5.0を構想・実現するために「日立東大ラボ」を設立し、大学の持つ知の力と企業の持つ技術開発力を組み合わせた研究開発を行っています。この本は、Society5.0の基本的な考え方や技術開発について解説した本です。

決してやさしい本ではありませんが、東大総長の五神真氏と日立会長の中西宏明氏の対談は興味深い内容です。特に、若い人たちだけに「これからの社会を支えてください」というのではなく、上の世代みずからが新しいことへの挑戦を楽しむべきだという主張には納得できます。Society5.0とは何かを考えるための良書と言えましょう。